

平成 28 年度 学校評価

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月13日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①これまでの教育成果をふまえ、きめ細かな学習指導のできる、教育課程と学習環境の充実を進め、学力の向上を図る。</p> <p>②自ら学ぶ力を育成するため個々の教員の授業力・教育力の向上を図る。</p>	<p>①一人ひとりが目標を持ち、着実に努力し、成果をあげることができるよう、進路希望別クラス編成を推進する。</p> <p>②ICTやアクティブラーニング等を取り入れた、生徒参加型授業を推進する。</p>	<p>①進路希望別クラス編成(アドバンスクラス、普通クラス)やスポーツリーダーコースの特徴・目標を明確化し、それぞれに必要な教材・題材を検討し効果的な学習指導を行う。</p> <p>②校内研修を計画的・組織的に進め、生徒の主体的・共働的学習活動やICTを取り入れた授業を相互に検証し外部機関との連携による授業改善に取り組む。</p>	<p>①進路実績や生徒アンケート、生徒による授業評価</p> <p>②学習到達度テストや外部模擬試験の結果</p> <p>・外部評価とその検証</p> <p>・職員による相互評価と検証</p>	<p>① 進路決定先の傾向はほぼ例年通りであったが、国立大学への合格者が出るなど難関校にチャレンジする生徒もいた。</p> <p>②生徒による授業評価を授業改善に利用した。</p> <p>5/30～6/24の授業見学期間を実施し、授業の相互評価を実践した。その成果をその後の授業改善に利用した。</p> <p>11/25に特別研究授業を実施した。</p>	<p>①一般受験に挑戦する生徒も昨年度から一定数おり、進学講習をはじめとした各種講習や放課後の補習を充実させて生徒の進路実現を支援していく。また、来年度1年生からスポーツリーダーコースがなくなるため、それに伴う進路指導の見直しも検討していく。授業改善の意識を職員全体に定着させるには継続していくことが必要である。</p> <p>②今後も職員全員で授業改善に取り組んでいく。</p>	<p>(3月11日実施)</p> <p>①アドバンスクラスの価値を高めてほしい。アドバンスクラスならこの大学に入れると期待のもてるようなものにしてほしい。学力別クラス編成も必要と思う。</p> <p>②ICT活用の授業はまだこれから実施件数を増やし認知度を上げてほしい。</p>	<p>① 平成29年度入学生の教育課程について、十分な検討を行い、学力向上を図るものとする。課題として、目的や目標を意識した実践を推進していくことである。</p> <p>② 教員相互の授業の検証や特別研究授業の充実を図った。今後は、より実践的に推進していきたい。</p>	<p>① 職員全体で、組織的に、目標達成のためのプロセスと検証を、適切に行い、共有化を図る。</p> <p>② 自己表現活動を取り入れた授業展開を深化させ、生徒の興味・関心を引き出し、自ら学ぶ力を充実させる取り組みを推進する。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①『一人が一人を代表する』という考えのもと、規範意識や基本的生活習慣の定着を図り、教育相談体制を充実させ、『いじめ問題』等への迅速かつ継続的で適切な対応を行う。</p> <p>②活動を通し、人間力・自主性や実行力、リーダーシップ等の育成を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりが自己肯定感を持ち、積極的に社会に参加し、他を思いやる心を育てる。</p> <p>②1年次の部活動全員加入を継続して、部活動を通じた社会性の育成に努める。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な学年集会等を通して、自己の規範意識や自律心の醸成を促し、学校全体の取り組みとする。また、教育相談・個別支援体制やいじめ防止に対し、研修を通じて職員全体への周知と能力の向上を図る。</li> <li>・心身の健康や生活習慣を自主的に管理できる能力を育成する。</li> </ul> <p>②部活動を通して、また生徒の自主的な健康管理を促し、基本的生活習慣の確立に努め、規範意識や自律心の醸成を促し、個々の取り組みが集団や学校全体の取り組みとなるように努める。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会の実施回数と指導内容</li> <li>・全体研修やケース会議の実施回数や研修内容</li> <li>・生徒によるアンケート</li> <li>・健康課題の把握と指導状況</li> </ul> <p>②部活動の成果や実績</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や終業式等で規範意識の注意を喚起。最終学期になり苦情は無いが今後も指導を継続していく。</li> <li>・第2回のアンケート調査結果いじめに関しては問題はなかった。</li> <li>・健康診断の結果で異常がある生徒には個別に指導した。また、合宿前や修学旅行前、全員参加のマラソン大会前には健康相談を実施した。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で部活動を支えていくという共通認識のもと、部活動入部率が80%超を継続している。</li> <li>・生徒へ多くの活動の場を提供しており、職員もそのサポートを惜しまない。生徒は日々の学校生活の中に部活動の時間が大きく位置付ける。</li> <li>・年度当初の部活動紹介の行事でも、各部は掲示用パネル・ポスター作製にも熱心に取り組み、新入生勧誘のための積極的なアピールに努めた。</li> <li>・本年度も、弓道部・陸上部が全国大会へ進出し、カヌー部は関東大会の常連となっている。</li> </ul>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識を定着させる為根気強い指導が必要である。毎月学年集会を実施する。</li> <li>・年度当初のいじめ防止全体会の継続、教科担当者会議等での情報交換、集会での生徒に指導など今後も職員全員でいじめ根絶に向けて取り組む。</li> <li>・持病のある生徒に対して継続的に指導を行う。</li> <li>・スクールカウンセラーや関係職員との連携の強化。</li> <li>・部活動の定着率には高いものがありさらなるきめ細かい指導の徹底のためにも、部活動の指導時間の確保が必要不可欠である。</li> <li>・活動場所の確保、部活動費の充実、指導者・インストラクター等の補強が急務である。</li> </ul>	<p>①松田駅などの乗車や歩きスマホの状況に関心がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の並列走行がみられる。指導してほしい。</li> <li>・生徒指導の件数が激減して生活面・進学面の両面で結果が出ているのはすばらしい。</li> </ul> <p>②部活動を通して日常の生活意識が上がっている。親もその子供の姿に影響を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GBT等きめ細やかな相談体制を作してほしい。</li> <li>・文化部も整備が必要。</li> </ul>	<p>① 特別指導の著しい減少など、規範意識や基本的生活習慣の定着は充実している。外部からの苦情等についても減少している。今後も0件を目指して推進していきたい。</p> <p>② 東山北駅での救急救命行為など人間力・自主性や実行力の向上が顕著に見られて、今後にも下級生に引き継がれるような継続性を持った指導を推進したい。</p>	<p>① 組織的指導体制を維持しながら、日常的に意識付けができるような指導・支援の充実を図りたい。</p> <p>② 幅広い活動を通して、社会人として身に付けるべき資質や常識・心構えを、自主的に考え、修得できるような日頃の指導・支援の充実を図っていく。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細かなキャリア教育を実践する。</p>	<p>3年間を見据えキャリア教育を計画的に推進しきめ細かな指導体制を整え、自己実現や進路実現を目標に、進路実績の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FOMの狙いを明確にし、分野別進路ガイダンスを充実させ、進路指導の成果をあげる。</li> <li>・生徒個々の進路に関するデータを作成し、学年・グループによる組織的進路指導に活用し、進路希望の実現を図る。</li> <li>・進学補習や長期休業中の講習を充実させ、生徒の進路希望の実現を図る。</li> <li>・大学や地域企業との連携を通して、生きる力の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績や指導内容、指導経緯</li> <li>・ガイダンスの実施回数と生徒や保護者の満足度</li> <li>・各種補習・講習の実施状況や参加状況</li> <li>・インターンシップへの参加者数や参加状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野別ガイダンス等を計画的に実施し進路選択における情報提供に努めた。</li> <li>・模試の結果や日頃の進路指導を踏まえた受験校決定への支援を行った。また、今年度より進路チェック票を導入し、出願状況や受験の可否等の一元的な掌握に努めた。</li> <li>・夏期講習や進学講習、放課後の補習の実施を通して、学習習慣の定着や学力の向上を図った。夏期講習受講者は延べ55名、進学講習受講者は延べ13名。</li> <li>・1年アドバンスクラス(3クラス)を中心とした文教大学による大学セミナーやインターンシップ(参加者21名)、さらに進路ガイダンスを通して、進路選択・決定の支援に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒の進路先とマッチしたガイダンスを実施できているが、生徒の視野をより広げるような上級学校の招聘も検討していく。</li> <li>・今年度より導入した進路チェック票をさらに発展させ、学年・グループが連携した組織的な進路指導を検討していく。</li> <li>・今年度の冬期講習は曜日の関係で実施しなかったが、来年度は夏期講習、冬期講習ともに実施し進学講習も充実させていく。</li> <li>・今年度の文教大学との高大連携に加え、多くの生徒の進学先でもある神奈川大学や産業能率大学等との連携も検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学に向けた意欲の高まりはよい傾向である。入学時から進学を考える雰囲気づくりをしてほしい</li> <li>・センター試験や経済面など受験情報を流してほしい。</li> <li>・進学補習、講習はぜひ強く奨め、部活動引退後の環境を整えてほしい。</li> <li>・一般受験の生徒は1月から自由登校にしてもらえないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四年制大学への進学者数が増加傾向にあり、学力向上と結びついて指導が充実してきている。家庭の理解を得て、進路希望に応じた指導のバランスを図りたい。</li> <li>・進路希望別クラス編成を実施して、2期目の卒業生の進路状況が一定の明確な方向性を持つようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のみではなく、保護者への情報提供も充実させ、適切な進路選択が行えるように、指導・支援体制の充実をさらに図りたい。</li> <li>・進路希望別クラス編成を、より効果的に運用できるように、生徒・保護者の理解の深化を図る。</li> </ul>

4	地域等との協働	<p>地域の意見を取り入れ、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくりの推進のため、適切に地域の意見を取り入れ、また、学校情報の提供を行う。</li> <li>授業、部活動、ボランティア活動、学校行事等を通して地域協働を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の導入を進め、積極的に地域の意見を収集し、自治体や他校との連携に努め、その意義や成果を地域に発信する。</li> <li>地域の幼小中高間の交流を進め、相互の理解と連携に努める。</li> <li>地域の防災拠点として、職員・生徒の防災意識を高め、地域と連携した災害時の体制を整備し、積極的に地域との連携を進める。</li> <li>部活動等による交流を推進し、ボランティア情報の提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動への参加回数、部活動実績の把握、HPのアクセス数および更新回数</li> <li>学校と地域との交流回数やその状況</li> <li>交流回数と生徒の参加状況</li> <li>保護者や外部の評価内容と評価者数や実施回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校とPTAとの話し合いの時間を多くしお互いの齟齬なく諸行事を円滑に行い、双方の信頼関係が構築された。</li> <li>防災訓練において様々な防災体験を取り入れ、生徒の防災意識を高めると共に、校内DIG研修を行い、職員の防災意識も高めることができた。</li> <li>HPは積極的な取材で日々更新し、4～12月のアクセス件数は68,000件で1日平均247件。タウンニュース紙には弓道、陸上競技部の活躍が掲載された。</li> <li>夏休みオープンスクールは287名来校し、部活動生徒が対応した。</li> <li>第1回学校説明会には180名が来校。個別相談は13件。第2回学校説明会は182名、第3回学校説明会は257名が来校し、来場数は昨年並みだった。(新規事業)第2回説明会后、硬式野球部等4部活動が部活体験(43名)を実施した。</li> <li>中学主催進路学習会(足柄台・山北・白鷗・千代)に参加した。鴨宮中学・城北中学が来校した。</li> <li>部活動に対する主体的な取り組みを通して、日常に対する意識改革及び、社会性・公共性・コミュニケーション能力等の養成を促進させた。</li> <li>地域ボランティアは部活単位でも参加をし、地域の評価も高く、生徒の意識の高揚を促している。</li> <li>教科外活動は参加促進に努めた。</li> <li>山高祭においても、山北町・商工会・観光協会と連携して町おこしの一翼を担うべく活性化に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA役員以外も学校行事に参加するにより学校からの発信力を高め、また地域との連携を今後さらに強めていく。</li> <li>消防署との連携の体制を整え、より実質的な防災訓練を行う。</li> <li>今年度新規事業の第2回学校説明会後の体験部活動について中学生の関心も高かったので来年度も継続したい。その他については、これまでの取り組みを継続・発展させていきたい。</li> <li>本校の部活動を通しての社会貢献活動も5年ほど前から次第に活発になり、どうにか軌道に乗せることができた。地域の本校ボランティア活動に対する評価が高いことから、その地域の信頼に応え、質の高さを維持すべく、多くの生徒に寄り添い、ボランティアの意義を語り続ける本校の指導体制をいかに確立するかが今後の最大の課題となる。</li> <li>山高祭については、地域との協働を考えた生徒会本部の企画立案を促進させるためにも、LHRの時間の確保は必須条件となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の教育資源を活用し交通の悪さというデメリットはメリットにもなることを宣伝するとよい。駅からの近さもメリットである。</li> <li>山北中学生で入学希望者が増えたのは、部活動を始め山高生と交流する機会が多い、自転車を通え部活動後も遅くならず帰れるなどがある。生活指導の件数が減ったのは、生徒、家庭、先生の信頼関係ができて現われだろう。中学は異校種間の交流を考えている。</li> <li>部活動を保証するため指導者の補強は必要。</li> <li>より広い保護者の行事への参加に役員も協力。家庭でも役に立つ防災活動の講習などを希望する。</li> <li>毎年、町の行事等に協力してもらい感謝。ライブイン山北では感謝状も町として贈呈した。今後も宜しく願います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域からの要望を踏まえ、積極的にボランティア活動等により地域社会に貢献できた。また、地域の要望に適切に対応し、グラウンドの防砂ネットの設置や破損しかけた擁壁の修繕工事などにも迅速に対応できた。今後は、地域連携を推進しながらも、職員の負担を増加させることなく、どのように軽減を図っていくかが課題である。</li> <li>今年度は、地域との共同防災訓練が相互の行事の都合で実施できなかったが、来年度は、適切に行う必要がある。また、その際、学校の持つ防災に関する、ノウハウや設備の活用を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も地域連携を継続的に充実を図りながら、より効果的に推進していくためにも、地域と学校が十分な意見交換を行い、相互の理解を共有し、地域と学校が共に有益となるように実践していく必要がある。</li> <li>地域の防災拠点としての重要性を認識し、地域の防災リーダーとしての役割を認識し、連携がとれるように、地域と協働の研修等の充実を図る。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員の計画的な人材育成、個々の資質・能力の向上を図り、学校全体の教育力の向上を目指す。</li> <li>重点課題総点検結果を検証し、事故・不祥事防止の徹底に努める。</li> <li>県立高校改革に基づいた、学校運営を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICTやアクティブラーニング等を推進するための校内研修に計画的・組織的に取り組む。</li> <li>重点課題総点検結果を検証し、事故・不祥事防止の徹底に努める。</li> <li>学校のミッションを全職員に周知し、学校全体の取り組みとする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>OJTを積極的に取り入れ、計画的な校内研修を行い、資質・能力の向上を図り、人材育成に努める。</li> <li>重点課題総点検の結果を踏まえて、職員への啓発活動を計画的・組織的に展開する。特に入学者選抜における不祥事を根絶する。</li> <li>平成29年度入学生の教育課程の作成を行い、学校の教育姿勢を明確にする。</li> <li>学校全体として取り組むテーマを明確にし必要に応じて組織等を整備し、解決に取り組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>研修回数や研修内容とその満足度</li> <li>不祥事防止の実施回数やその内容と職員の意識状況とその結果</li> <li>職員の教育活動への取り組み状況</li> <li>学校説明会等での中学生や保護者の意見</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年間2回、生徒による授業評価を実施し、その分析と改善を生徒及び職員に配布した。11/25に特別研究授業を実施した。</li> <li>成績処理の流れを、成績処理支援システムを中心としたデータ管理及び処理にすることにより、昨年度に比べ入力ミスは皆無となった。</li> <li>平成29年度入学生の教育課程を作成し、職員の共通認識のもと、新たなカリキュラムを学校説明会等で周知し、理解を得た。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業改善の意識を職員全体に定着させるには継続していくことが必要である。今後も職員全員で授業改善研修に取り組んでいく。</li> <li>次年度も多少の修正を加えながら今年度同様の成績処理を行う予定である</li> <li>平成29年度入学生が2年生でスポーツ系を選択するための指導のありかたと、3年生での自由選択の内容の精選。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業、部活動への尽力を評価します。様々な活動において自己肯定観を持ち自分も他人も大切にすることを育てることが社会全体に重要と考えます。すべての命が大切にされなければならぬという理念が学校全体に当たり前に認識されることを願います。</li> <li>スポーツを活かして、学業も上をめざしていく向上心のある人を育ててほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>退職者や異動対象者が非常に多く、変革期を迎える中、学校の長所を継続し、新鮮さを導入できる学校運営が急務である。</li> <li>全職員の協力体制の下、今年度の入試は十分な点検を行いながら実施できた。運営上の課題が生じた面もあり、十分な検証を行い、十分な検証を行いたい。</li> <li>スポーツリーダーコースの解消に伴う、新規の教育課程を設定することができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>山北高校のよさを継承しつつ、生徒や保護者の要望に適切に対応できる組織作りを推進する。</li> <li>今年度の反省を踏まえ、組織的に事故防止に対応できるように、役割や分担・責任の明確化を推進する。</li> <li>学校のミッションを踏まえた検証を定期的に行い、日常の教育活動の充実を図っていく。</li> </ol>